

大字名	姉崎海岸の一部、椎津の一部、姉崎の一部
-----	---------------------

1-1	姉崎小学校	4.238 km ²
-----	-------	-----------------------

○地区の概要

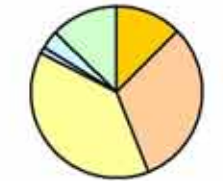
市の北西部に位置し、西側を袖ヶ浦市と接する。椎津川が地区の東部から流れ、東京湾に注ぐ。地区の北西側は国道16号に接し、国道の東側をほぼ平行にJR内房線が走る。中央部を北東-南西に平成通りが通る。JR内房線より北側は、海岸沿いの低地からなり、工場等が多く分布する。JR内房線より南側は台地からなり、JR内房線と平成通りに囲まれた地域では戸建て住宅が多い。平成通りの南側は農地、山林が多い。椎津川の南側は斜面が分布し、一部は崖崩れ危険箇所となる。また、街区は未整備のところが多く、道幅が狭く、急勾配、さらには沿道にブロック塀が分布するところもある。避難収容施設は、中北部の姉崎小学校で、最も遠い南部からは約2kmある。

○社会条件

人口	0~4歳	243 人
	5~64歳	5,196 人
	65歳~	1,385 人
	総人口	6,825 人
	世帯数	2,995 人
世帯人員	2.28 人/世帯	
65歳以上の人口比率	20.30 %	
75歳以上の人口比率	7.97 %	
建物棟数	木造(昭和35年以前)	339 棟
	木造(昭和36~55年)	864 棟
	木造(昭和56年以降)	1,053 棟
	非木造(昭和45年以前)	44 棟
	非木造(昭和46~55年)	91 棟
	非木造(昭和56年以降)	347 棟
合計	2,738 棟	



地区の人口構成



地区の建物構成

○地区位置図



○防災関連施設・公共施設

市役所、支所	—	避難収容施設	姉崎小学校
主な公共施設等	アネッサ、姉崎運動広場、JR姉崎駅	救護所	—
警察署、交番、駐在所	姉崎交番	福祉避難所	—
消防署	—	町会公民館・集会場	椎津会館、上町中央公民館、新町集会所、椎津新田集会所、椎津台公民館 他5箇所
消防団	姉崎支団第1分団、第2分団	幼稚園・保育所	姉ヶ崎幼稚園、椎津保育所
病院・診療所等	あねさき林クリニック、飯島マザーズクリニック、こむら内科皮膚科クリニック、五味クリニック、高岡クリニック、ちばENTクリニック 等	小学校・中学校・高校	姉崎小学校
災害協力井戸	0	防災井戸	0
		福祉施設	グランモア和光苑、グループホーム リブフォーレスト姉崎

○近年の主な災害履歴

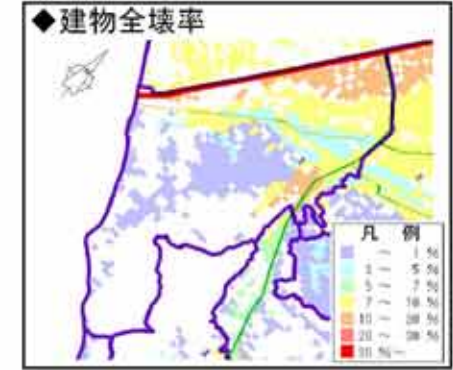
平成12年7月7日 台風3号 床下浸水、道路冠水
成18年10月6日大雨 市道の土砂崩落

○避難収容施設・避難場所収容能力

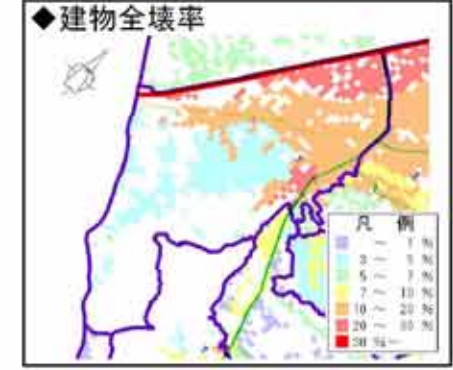
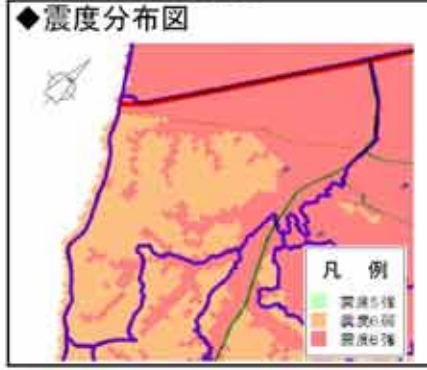
名称	宿泊可能人数	一時避難人数
姉崎小学校	283 人	877 人
	人	人
	人	人
	人	人
	人	人
	人	人
	人	人
計	283 人	877 人

○予測結果

<東京湾北部地震>



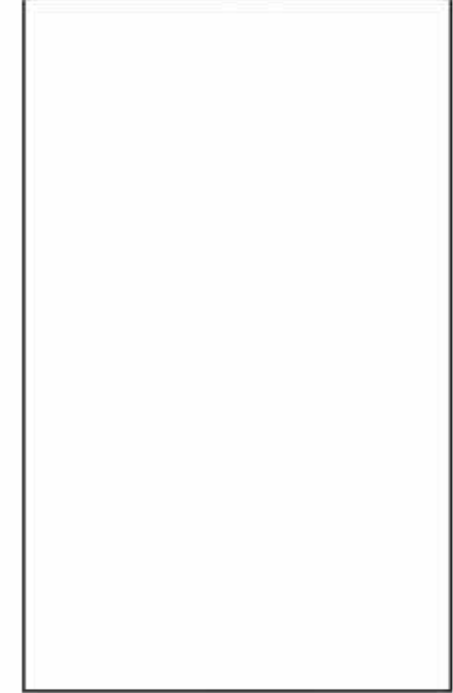
<市原市直下地震>



○地震被害予測結果

	東京湾北部地震		市原市直下の地震	
	被害量	比率	被害量	比率
全壊建物	150 棟	5.45 %	288 棟	10.53 %
死者	3 人	0.04 %	9 人	0.13 %
負傷者	119 人	1.74 %	174 人	2.57 %
避難者	1,065 人	15.61 %	1,129 人	16.54 %

○浸水想定区域図

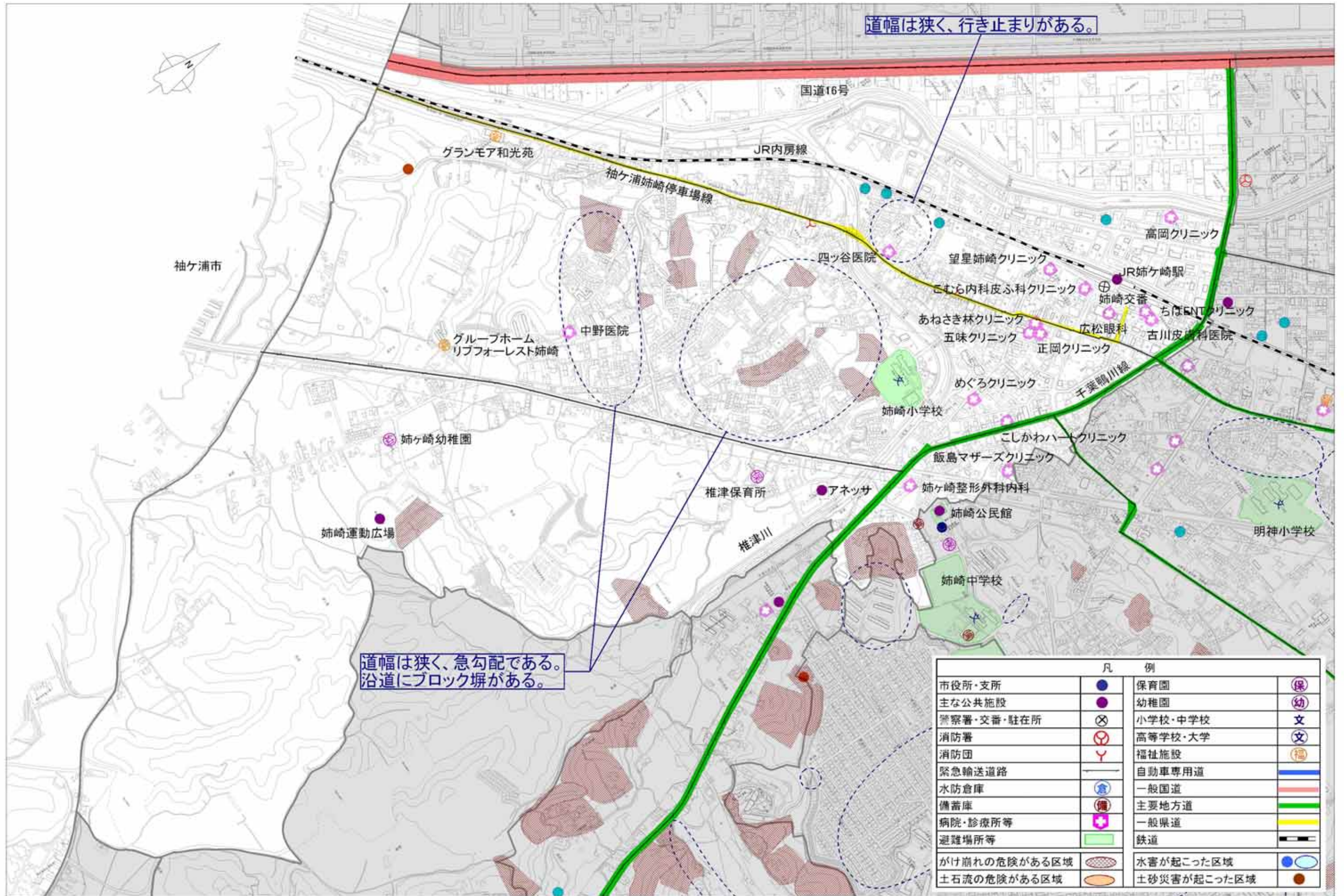


○災害危険度評価

危険度評価項目	→危険度が高い
水害	■■■■
土砂災害(豪雨・地震による)	■■■■
地震による揺れやすさ	■■■■
地震による建物被害	■■■■

○防災対策の課題

姉崎小学校の南側の住宅地の一部では、道路閉塞、消防活動の困難等が想定され、道路の拡幅、自主防災活動の強化が望まれる。
地区内の人口構成は、65歳以上人口が20.30%で比較的高齢化が進んだ地域である。
避難収容施設に関しては、地震被害予測結果で算出された避難者数に比べ、宿泊可能人数が少ないので、町会公民館や集会場などを利用した避難が望まれる。



道幅は狭く、行き止まりがある。

道幅は狭く、急勾配である。
沿道にブロック塀がある。

凡 例			
市役所・支所	●	保育園	保
主な公共施設	●	幼稚園	幼
警察署・交番・駐在所	⊗	小学校・中学校	文
消防署	⊗	高等学校・大学	文
消防団	⊗	福祉施設	福
緊急輸送道路	→	自動車専用道	—
水防倉庫	倉	一般国道	—
備蓄庫	備	主要地方道	—
病院・診療所等	+	一般県道	—
避難場所等	□	鉄道	—
がけ崩れの危険がある区域	斜線	水害が起こった区域	●
土石流の危険がある区域	斜線	土砂災害が起こった区域	●

0 100 200 400 600 800 1000m

1:10000

大字名 畑木、姉崎海岸の一部、姉崎の一部

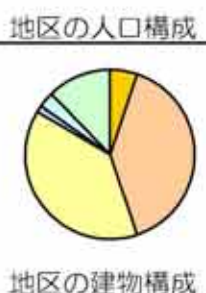
1-2 明神小学校 3.898 km²

○地区の概要

北西側が国道16号に接し、椎津川が国道16号とほぼ平行に国道の東側を流れる。また、JR内房線が北東から南西に、主要地方道市原茂原線が南部を東西に通る。
 地区の南部は台地であるが、その他の大部分は、海岸沿いの低地からなる。椎津川の西側は工場等が多く分布する。その他は戸建て住宅と農地が混在する。街区はJR内房線の東側は全体に未整備で、明神小学校の周辺で道幅が狭いところが多い。南部と東部は斜面となり、がけ崩れ危険箇所が多く分布する。
 避難収容施設となる明神小学校は中央部、姉崎中学校は南西端にそれぞれ位置し、最も遠い北西部、東部からは約2kmある。

○社会条件

人口	0～4歳	421 人
	5～64歳	7,796 人
	65歳～	1,842 人
	総人口	10,058 人
世帯数	4,549 人	
世帯人員	2.21 人/世帯	
65歳以上の人口比率	18.31 %	
75歳以上の人口比率	6.36 %	
建物棟数	木造(昭和35年以前)	199 棟
	木造(昭和36～55年)	1,466 棟
	木造(昭和56年以降)	1,441 棟
	非木造(昭和45年以前)	57 棟
	非木造(昭和46～55年)	113 棟
	非木造(昭和56年以降)	453 棟
合計	3,729 棟	



○地区位置図



○防災関連施設・公共施設

市役所、支所	姉崎支所	避難収容施設	明神小学校、姉崎中学校、姉崎公民館
主な公共施設等	姉崎公民館、姉崎郵便局	救護所	姉崎公民館
警察署、交番、駐在所	—	福祉避難所	—
消防署	姉崎消防署	町会公民館・集会場	富士見自治会館、姉崎台町会自治会館、山新自治会館、畑木公民館
消防団	姉崎支団第5分団、(第4分団)	幼稚園・保育所	姉崎保育所、姉崎第二保育所
病院・診療所等	荒井医院、市原メディカルケア、内田医院、蔵内医院、ひまわりクリニック、あさひガーデンクリニック	小学校・中学校・高校	明神小学校、姉崎中学校
災害協力井戸	0	防災井戸	1
		福祉施設	あさひガーデン姉崎

○近年の主な災害履歴

平成12年7月7日 台風3号 床下浸水、道路冠水
 平成15年8月15～16日 大雨 道路冠水
 平成16年9月4日 大雨 床下浸水1棟

○避難収容施設・避難場所収容能力

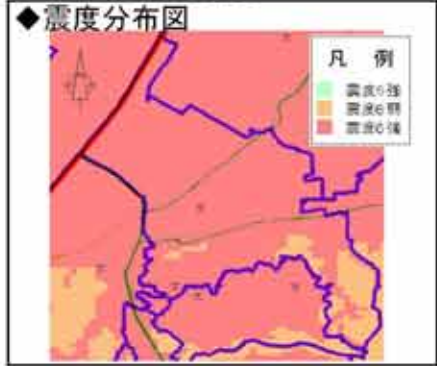
名称	宿泊可能人数	一時避難人数
明神小学校	201 人	1,428 人
姉崎中学校	507 人	2,425 人
姉崎公民館	180 人	0 人
	人	人
	人	人
	人	人
	人	人
	人	人
計	888 人	3,853 人

○予測結果

<東京湾北部地震>



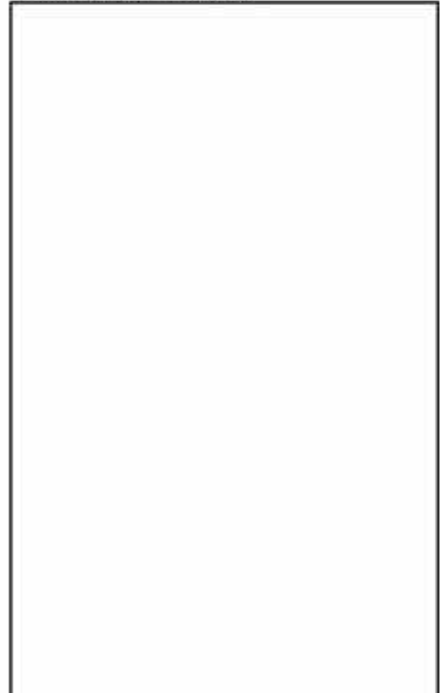
<市原市直下地震>



○地震被害予測結果

	東京湾北部地震		市原市直下の地震	
	被害量	比率	被害量	比率
全壊建物	249 棟	6.68 %	467 棟	12.54 %
死者	6 人	0.06 %	17 人	0.17 %
負傷者	203 人	2.02 %	218 人	2.22 %
避難者	1,715 人	17.05 %	1,749 人	17.39 %

○浸水想定区域図

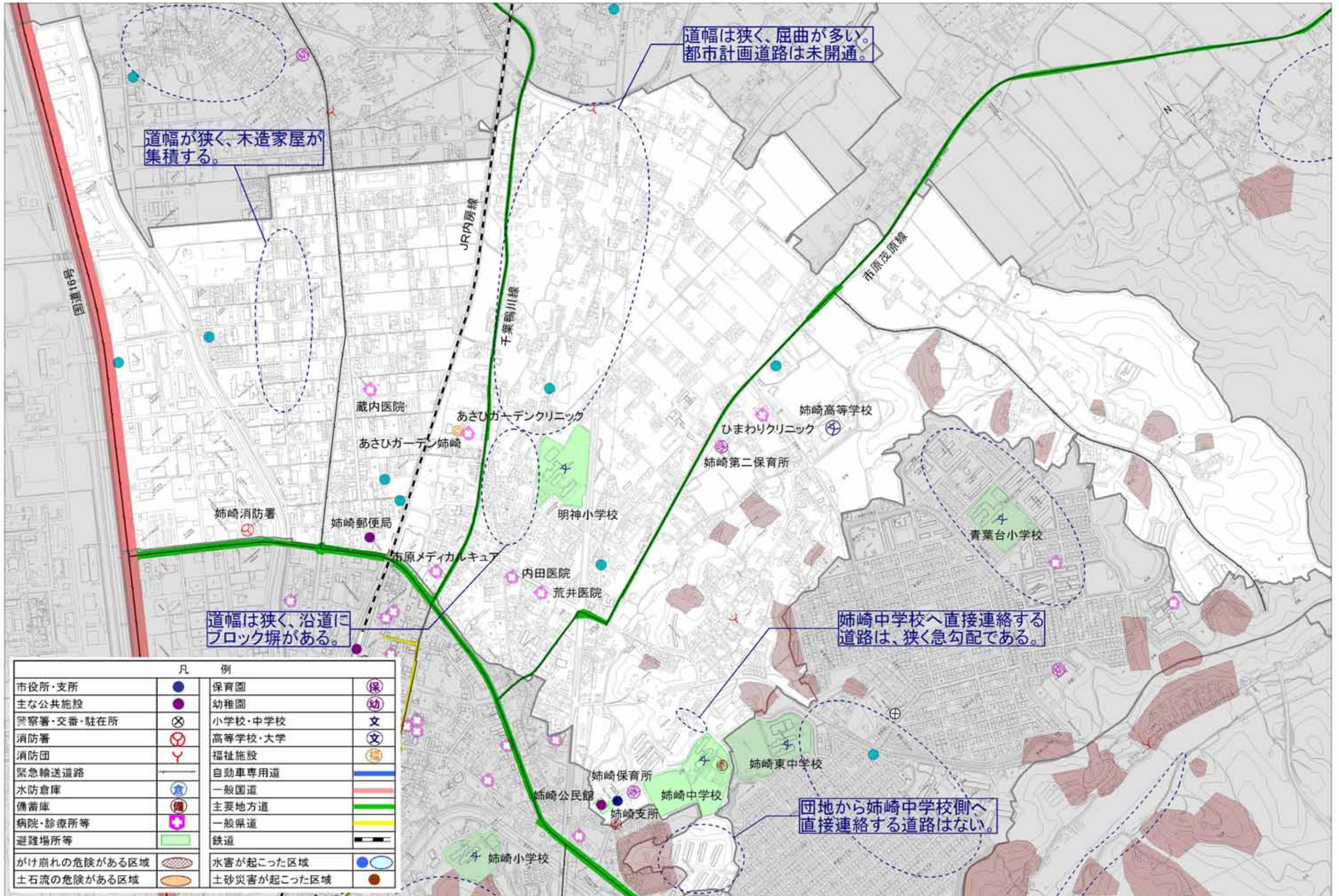


○災害危険度評価

危険度評価項目	→危険度が高い
水害	■■■■■
土砂災害(豪雨・地震による)	■■■■■
地震による揺れやすさ	■■■■■
地震による建物被害	■■■■■

○防災対策の課題

明神小学校の北側、西側付近では、道路閉塞、消防車両等の通行困難が想定され、街路の拡幅、自主防災体制の強化等が望まれる。
 姉崎中学校へ直接連絡する道路は、狭く急な坂道に限られるため、明神小学校への避難が有効である。ただし、畑木地区は明神小学校、姉崎中学校から離れており、青葉台小学校への避難が有効である。
 建物分布では、昭和56年以前に建てられた木造建物の比率がやや高い。耐震改修の促進が望まれる。
 避難収容施設に関しては、地震被害予測結果で算出された避難者数にくらべ、宿泊可能人数が少ないので、町会公民館や集会場などを利用した避難が望まれる。



道幅は狭く、屈曲が多い。
都市計画道路は未開通。

道幅が狭く、木造家屋が
集積する。

道幅は狭く、沿道に
ブロック塀がある。

姉崎中学校へ直接連絡する
道路は、狭く急勾配である。

団地から姉崎中学校側へ
直接連絡する道路はない。

凡 例			
市役所・支所	●	保育園	保
主な公共施設	●	幼稚園	幼
警察署・交番・駐在所	⊗	小学校・中学校	文
消防署	⊗	高等学校・大学	文
消防団	Y	福祉施設	福
緊急輸送道路	—	自動車専用道	—
水防倉庫	倉	一般国道	—
備蓄庫	備	主要地方道	—
病院・診療所等	+	一般県道	—
避難場所等	■	鉄道	—
がけ崩れの危険がある区域	■	水害が起こった区域	●
土石流の危険がある区域	■	土砂災害が起こった区域	●



大字名 青葉台1丁目～8丁目、姉崎の一部

1-3 青葉台小学校 1.285 km²

○地区の概要

台地に造成された住宅地で、周囲にがけ崩れ危険箇所が多く分布する。
戸建て住宅が多く、斜面は雑壇状になる。街区は整然としている。
避難収容施設は、東部の青葉台小学校と北西部の姉崎東中学校で、地区のどの部分からも1km未満の範囲にある。

○社会条件

人口	0～4歳	256 人	
	5～64歳	6,516 人	
	65歳～	2,020 人	
	総人口	8,793 人	
世帯数	3,529 人		
世帯人員	2.49 人/世帯		
65歳以上の人口比率	22.98 %		
75歳以上の人口比率	6.49 %		
建物棟数	木造(昭和35年以前)	0 棟	
	木造(昭和36～55年)	1,000 棟	
	木造(昭和56年以降)	1,129 棟	
	非木造(昭和45年以前)	0 棟	
	非木造(昭和46～55年)	230 棟	
	非木造(昭和56年以降)	411 棟	
合計	2,770 棟		

○地区位置図



○防災関連施設・公共施設

市役所、支所	—	避難収容施設	青葉台小学校、姉崎東中学校
主な公共施設等	—	救護所	—
警察署、交番、駐在所	青葉台駐在所	福祉避難所	—
消防署	—	町会公民館・集会場	青葉台自治会館、みどりヶ丘集会所、社宅集会所、ダイアパレス集会所
消防団	(姉崎支団第5分団、第6分団)	幼稚園・保育所	青葉台幼稚園
病院・診療所等	帝京大学ちば総合医療センター、茂久田診療所	小学校・中学校・高校	青葉台小学校、姉崎東中学校
災害協力井戸	0	防災井戸	1

○近年の主な災害履歴

平成12年7月7日 台風3号 道路冠水
平成15年8月15～16日大雨 がけ崩れ

○避難収容施設・避難場所収容能力

名称	宿泊可能人数	一時避難人数
青葉台小学校	245 人	1,190 人
姉崎東中学校	449 人	1,894 人
	人	人
	人	人
	人	人
	人	人
	人	人
計	694 人	3,084 人

○予測結果

<東京湾北部地震>



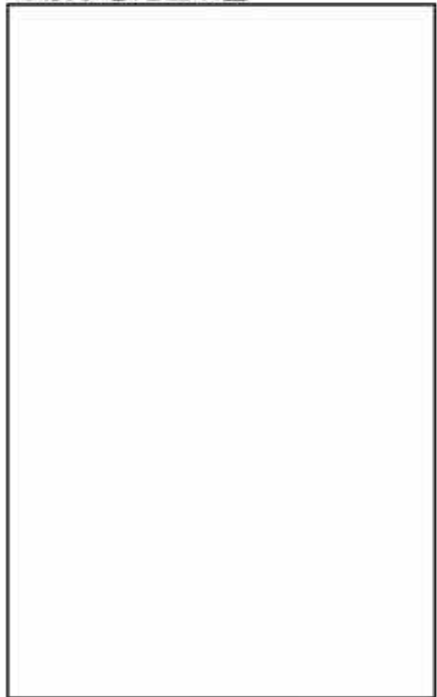
<市原市直下地震>



○地震被害予測結果

	東京湾北部地震		市原市直下の地震	
	被害量	比率	被害量	比率
全壊建物	55 棟	1.96 %	142 棟	5.12 %
死者	1 人	0.01 %	4 人	0.04 %
負傷者	82 人	0.93 %	158 人	1.78 %
避難者	707 人	8.04 %	862 人	9.80 %

○浸水想定区域図



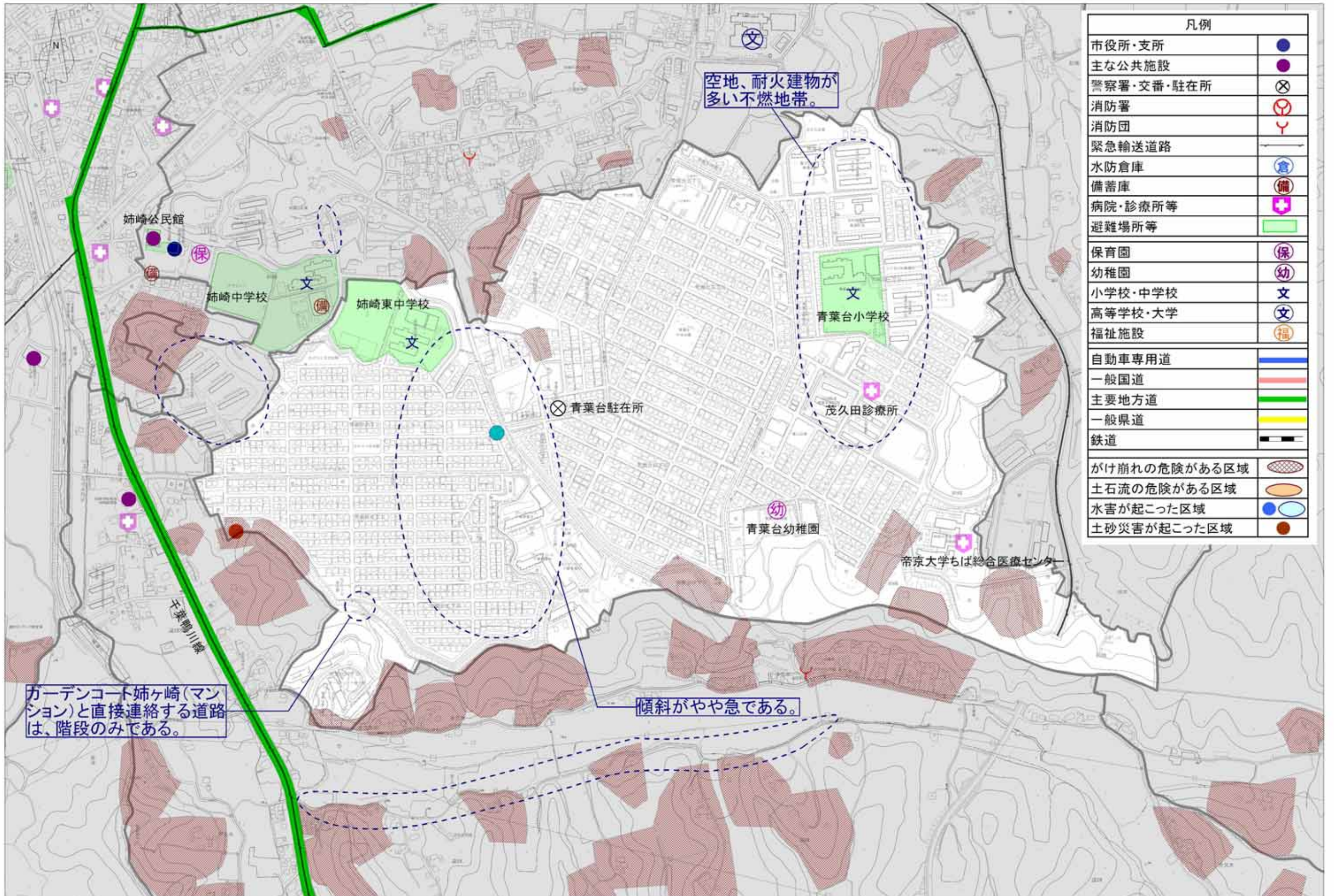
○災害危険度評価

危険度評価項目	→危険度が高い
水害	
土砂災害(豪雨・地震による)	
地震による揺れやすさ	
地震による建物被害	

○防災対策の課題

整然とした街区で良好な住宅地である。
造成された土地の一部では、稀に地盤崩壊等のおそれがあるため、変状の把握や情報収集が重要である。
建物分布では、昭和56年以前の木造建物が木造建物全体の5割を占めており、耐震改修の促進が望まれる。
避難収容施設に関しては、地震被害予測結果で算出された避難者数にくらべ、宿泊可能人数が少ないので、町会公民館や集会場などを利用した避難が望まれる。

1-3 青葉台小学校



凡例	
市役所・支所	●
主な公共施設	●
警察署・交番・駐在所	⊗
消防署	⊗
消防団	⊗
緊急輸送道路	—
水防倉庫	倉
備蓄庫	備
病院・診療所等	+
避難場所等	■
保育園	保
幼稚園	幼
小学校・中学校	文
高等学校・大学	文
福祉施設	福
自動車専用道	—
一般国道	—
主要地方道	—
一般県道	—
鉄道	—
がけ崩れの危険がある区域	■
土石流の危険がある区域	■
水害が起こった区域	■
土砂災害が起こった区域	■